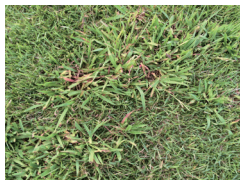


チガヤ・スズメノヒエ類は、秋と翌夏の体系防除で解決！

特にラフやバンカー周りなどで問題となる多年生イネ科雑草



チガヤ



スズメノヒエ

- ✓刈高が高く、刈込頻度が低い場所で繁茂しやすい
- ✓一度繁茂させると防除が困難になるが、防除してしまえば再びはびこるまでに時間を要する

チガヤ、スズメノヒエ類などの多年生イネ科雑草の生長パターン

9-10月

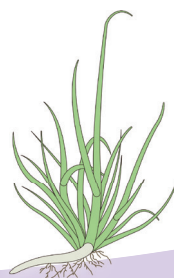
地下茎に
貯蔵養分を
蓄積する時期

地下茎

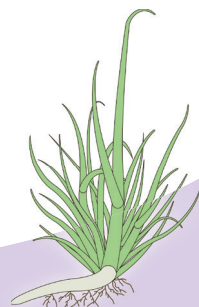


翌年6-7月

植物体、地下茎が
大きくなる
→防除がより難しくなる



蔓延

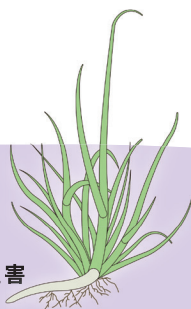


地下茎に貯蔵養分が十分にあるため、茎葉処理剤1回の処理で枯死させることは難しい

トリビュートODを用いた体系防除のイメージ

9-10月処理

地下茎に貯蔵養分を
蓄積する時期
→トリビュートODが蓄積を阻害



翌年6-7月処理

植物体、地下茎が小さい
→2回目のトリビュートOD



枯死

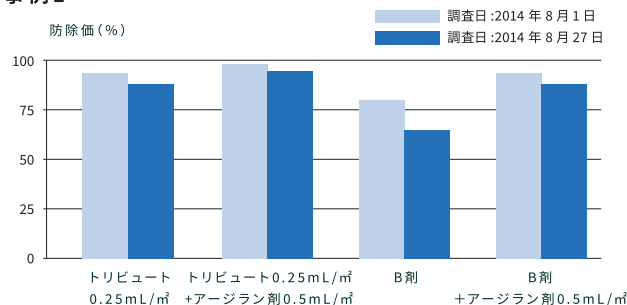
再生する体力が
無くなる



トリビュートODの秋から翌夏の体系処理によって、
多年生イネ科雑草を効率的に防除することが可能になります！

トリビュートODの体系処理による スズメノヒエ類の防除事例 (社内試験)

事例1



9月および翌年6月処理

試験場所: 関東Cゴルフ場

処理日:

2013年9月12日 (1回目)

2014年6月26日 (2回目)

調査日:

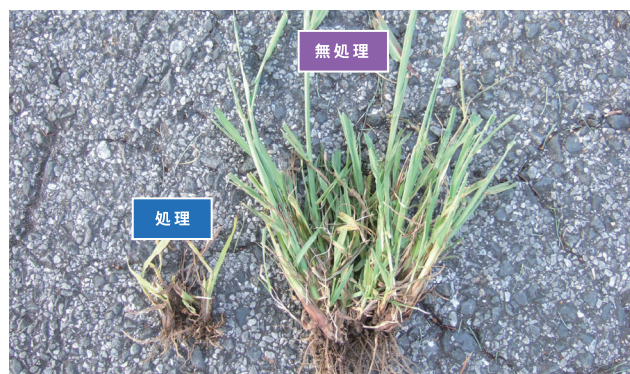
2014年8月1日 (6月処理から36日後)

2014年8月27日 (6月処理から62日後)

散布水量: 100mL/m²

(サーファクタントWK加用)

事例2



10月および翌年7月処理

試験場所: 関東Dゴルフ場

処理日:

2011年10月21日 (1回目)

2012年7月5日 (2回目)

調査日:

2012年7月26日 (2回目処理21日後)

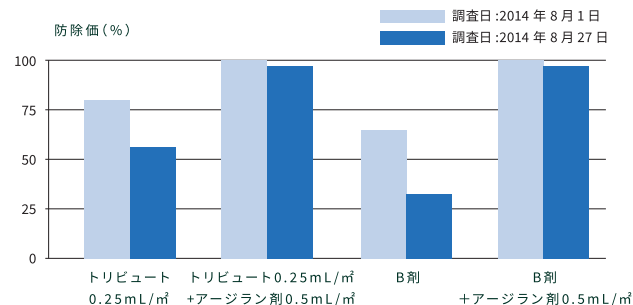
散布水量: 200mL/m²

薬量: トリビュート0.25mL/m²

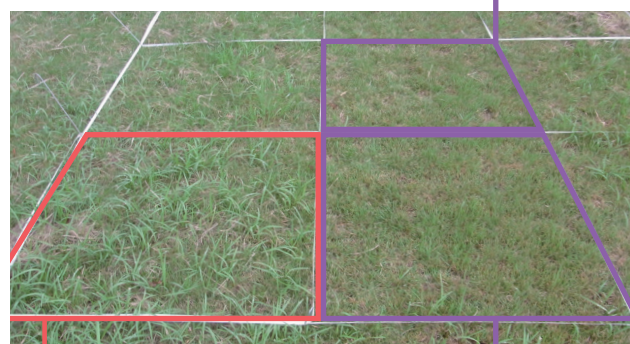
+ アーザラン剤 0.5mL/m²

(サーファクタントWK加用)

トリビュートODの体系処理による チガヤの防除事例 (社内試験)



- ① トリビュート0.25mL/m² + アーザラン剤 0.5mL/m²
- ② トリビュート0.25mL/m² + アーザラン剤 0.5mL/m²



- ① B剤
- ② B剤

- ① トリビュート0.2mL/m² + アーザラン剤 0.5mL/m²
- ② トリビュート0.25mL/m² + アーザラン剤 0.5mL/m²

9月および翌年6月処理

試験場所: 関東Cゴルフ場

処理日:

2013年9月12日 (1回目)

2014年6月26日 (2回目)

調査日:

2014年8月1日 (6月処理から36日後)

2014年8月27日 (6月処理から62日後)

散布水量: 200mL/m²

(社内試験)

(サーファクタントWK加用)

スズメノヒエ類、チガヤともに、

トリビュートODの秋から翌夏の体系処理で対照剤に比べて高い防除効果を得られた。

さらにトリビュートODにアーザラン剤を混合することによって、効果が安定する傾向が見られた。

トリビュート[®]

OD

チガヤ、スズメノヒエ類の防除には、
トリビュートODの秋から翌夏の体系処理が効果的

